

中国、一帯一路で大陸に照準

一帯一路は、13年に中国国
—— 家主席の習近平が提唱し
た陸の「シルクロード経済
ベルト」(一帯)と、海の「21世紀海上
シルクロード」(一路)を合わせた構
想だ。沿線60以上の国の人口は世
界の約6割、国内総生産で約3割に
達し、鉄道や道路、港湾、通信網な
どのインフラ整備を目指す。最近では
デジタル分野や中南米などを含める
など、概念や対象地域を広げている。
総投資額は1兆ドル(約110兆円)規
模とも見込まれ、中国が主導する「ア

ジアインフラ投資銀行」(AIIB)や、
中国がつくった「シルクロード基金」
も活用されている。

輸出や投資先の開拓とともに、中
国が輸入する石油・ガスなどの資源
や食糧の安定調達をはかる狙いも
指摘されている。東洋学園大学教授
(中国政治)の朱建榮(61)は「経
済が発達して過剰生産になり、発展
のエネルギーを海外に求めた。当初
は発展した沿海部から海に出ようと
したが、海洋大国の米国、日本など
とぶつかるので西に向かった」と分析す

る。一方、現状を「予想以上のスピ
ードで進んだことで一斉に反発も出て、
いったん立ち止まって軌道修正してい
る」とみる。

安倍政権は当初は構想に距離を
置き、16年8月に外交方針「自由で
開かれたインド太平洋戦略」を発表。
その後、北朝鮮情勢で緊張が高まる
なか、17年6月に初めて協力を対外
的に表明し、両国企業による「第三国」
での協力を探っている。●